

平成27年度 子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業
陶芸体験会

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

作陶（備前焼）体験をとおして豊かな感受性と創造性を培うとともに、岡山県の伝統文化にふれることを目的とする。

2. 事業の概要

（1）期日

平成27年7月25日（土）日帰り

（2）参加者

① 募集対象・人数

児童・生徒とその保護者・30人

② 参加人数

26人

（3）会場

午前 国立吉備青少年自然の家 午後 吉備高原学園高等学校

（4）講師等

吉備高原学園高等学校 非常勤講師 大石橋 宏樹氏
非常勤講師 片山 康之氏

（5）企画・運営のポイント

- ① 午前中のアクティビティには、家族間での交流を目的としたアイスブレイクおよび、午後の作陶に向けて発想力・創造力を高められるよう思考活動を取り入れた。
- ② 思考活動では、2～3家族を1チームとして、チーム内で話し合いながら課題に取り組む活動を行った。
- ③ 児童・生徒の作品について、希望者には10月に備前市で行われる「第6回子ども備前焼作品展」へ出展する。

3. 活動の内容等

（1）日程

| 7月25日（土） | |
|----------|--------------|
| 9:30 | 受付 |
| 10:00 | 開会式 |
| 10:30 | アイスブレイク・思考活動 |
| 11:45 | 昼食・移動 |
| 13:00 | 陶芸教室 |
| 16:00 | 閉会式 |

(2) 活動の状況



様子】

【作陶に取り組む様子】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：100%

(2) 参加者の声

- ① 日常経験できない陶芸、そして家族単位でのふれあいと、よい内容であったと思います。
- ② 最初は恥ずかしそうにしていたのですが、午前のゲームで自分から名乗ってきちんと挨拶をするなど、意外な一面を見ました。作陶の時には、本当に楽しそうにいきいきと取り組んでいました。
- ③ 普段子どもとスキンシップをとっていなかったなと思います。親子で参加することで、貴重な時間を過ごせました。

(3) 成果

午前中の活動では、最初は緊張していた参加者の表情も、アクティビティが進むにつれてほぐれていき、家族間だけではなく参加者間での積極的なふれあいが見られた。思考活動では、チームごとに話し合い、協力して課題に取り組む光景が見られた。

午後からの陶芸体験では、岡山県の伝統文化である備前焼について、大半の参加者が未経験であったが、午前中の活動の成果もあり、集中しながらも家族間や参加者間で楽しみながら個性の光る作品を作陶していた。この陶芸体験会では、伝統文化にふれるだけでなく、児童・生徒が豊かな創造性やコミュニケーション力を得ることができた。

(4) 今後の課題

今年度も昨年度と同じく県北を中心に広報を行い、定員に達したのが体験会当日の4日前であったが、当日キャンセルで定員割れとなった。このことから、次回は広報先の検討と日程に余裕のある広報計画を立てていきたい。

担当：事業推進係員 川上 祐介